

施策：	24	地域コミュニティによるまちづくり	財務コード	01090602-20-543
基本事業：	04	異文化理解の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	多文化共生のまちづくりが推進されていると思う市民の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成25年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
本市及び近郊在住の外国人		学習者（様々な国の外国人）に対応したプログラム（カリキュラム）を基本に、スタッフ（ボランティア）による日本語の学習を進める。 事業概要 開催日時：毎週火曜日10時から12時まで。 （第5週火曜日、祝日、年末年始、お盆、休館日を除く） 開催場所：生涯学習センター3階学習室6 定員：20人/1回 利用料金：100円/1回 方法：マンツーマンを基本				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
本市及び近郊で暮らしている外国人が、日常生活を営むうえで必要な日本語力を習得するとともに、日本語教室を通じて地域のひととの交流、対話を重ねることで相互理解を深め、すべての人にとって暮らしやすいまちとなることを目的とする。						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標	
		実績	実績	当初	要求	計画	計画		
にほんご教室が役に立たと回答した受講者の割合	%	100	100	100	100			100	
平均受講者数	人	9	14	10	10			10	

5. コスト									
事業費	計	千円	39	61	62	62			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	39	61	62	62				
正職員人工数	人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費	千円	782	802	838					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	821	863	900	62				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	平均受講者数は5人増加となった。市ホームページ、広報、パンフレットの設置、市民課前ロビーモニターでの教室案内などにより、日本語を学びたい外国人学習者の掘り起こしにつながった。例年、日本語を教えるだけでなく、教材を通じて日本の風習を伝えたり、七夕やお花見などの季節イベントを実施し、外国人の日本や本市への理解が進む学習を行っている。令和6年度は計画通りの回数（40回）を実施することができた。								
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	ボランティアのにほんご教室事業スタッフの令和6年度における平均参加人数は16人程となっている。令和6年度は、日本語教育の専門家に、市の教室運営を実際に見てもらい、指導・助言を受けたことで、教室運営の改善につなげることができた。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
引き続き、研修などを通じて、ボランティアスタッフの確保とスキルアップを推進する必要がある。									

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
本市及び近郊在住の外国人の増加に伴い、日常生活等に欠かせない日本語習得のニーズが予想されるとともに、日本語を教えるスタッフ（ボランティア）の確保ができたことから、開設の運びとなった。（平成25年4月開設）					対応するスタッフ数から、1回の学習者（外国人）数を20名を限度とし、学習生の登録制度により、スムーズな教室運営を行っている。				